

しらかば

2014年春号 第24号

北海道中国帰国者支援・交流センター

〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7

電話 011-252-3411 FAX011-252-3412

URL: <http://www.hokkaido-sien-center.jp>

E-mail: hokkaidocenter@dosityakyo.or.jp

がくしゅうはっぴょうかい ねんかんまな せい か はっぴょう 学習発表会 1年間学んだ成果を発表



子供の時できなかったこと、できてうれしい

3月15日、この1年学んできた成果を発表しようとして学習発表会が開かれました。参加したのは、センターで学ぶ皆さん150人、そして、ボランティア、支援者の皆さんも応援に駆けつけました。藤田所長のあいさつで始まり午前、午後の部、合わせて18の日本語による発表があり「発表は緊張するが充実感がある」とそれぞれが発表を楽しみました。

緊張するけど充実

樺太帰国者は「楽しかった。中国クラスの発表で知らなかったことがわかり勉強になった」、中国帰国者1世は「ロシアクラスの発表がよかった」と言い、中ロ合同クラスの発表は中国帰国者、樺太帰国者の共同作業で見事な発表を見せました。

なかで、会場を沸かせたのは「ロシア1世の日本語」クラスの「もも太郎」です。次なにか起きると会場は興味津々、あっと驚いたり爆笑を誘ったり大好評でした。ある1世は「子供の時小学校も行かれなかった。いま子供の時できなかったことができるのはほんとに嬉しい」と笑顔を見せます。

太極拳や「皆で歌おう」クラスも発表。歌の

クラスは指導にあたる先生が「今日はとてもよくできました」と合格点。中国帰国者1世は「歌っていると気持ちのびのびする」と語っていました。母語保持中国語クラスの子供たちの中国の歌に涙ぐむ1世。発表は「日本語学習に効果ある。舞台上上がって日本語で発表することがよい。みんなも勉強になるはず」と語る1世。学習発表会は帰国者の想いのさまざまな面を見せてくれました。

ボランティア、支援者の皆さんは「こういう発表の場は良いこと、日ごろの努力がうかがえた」ともって開かれたほうがよい、多くの人を知ってもらった方がよいと感想を語っていました。

旭川 おしゃべり交流会と料理交流会

2月20日には恒例のおしゃべり交流会が開かれました。この日は、毎回ボランティアで参加する倉重さんのギター演奏会が行われました。溢れる力を感じる演奏に皆さん異文化を超えてともに感動し「音楽の力」を感じました。



3月17日、料理作りで交流と、樺太帰国者 畠山レイ子さん、畠山イリーナさんを講師にロシア料理に挑戦しようという企画。樺太帰国者、中国帰国者、そしてボランティアの皆さん、23名が参加しました。旭川市、旭川市社会福祉協議会、NPO シーズネットの協力を得て神楽公民館で開催された交流会は、参加した皆さんそれぞれに異文化体験を深めました。

料理は「ペリメニ」「ワレニキ」「チェブレキ」「キャベツとニンジン」のサラダ「フルーツサラダ」のロシアの家庭料理です。樺太帰国者の皆さんが大活躍、粉を練ったり具を包

ロシア家庭料理



違いを知っておいしい

帰国者が地域に伝える食文化

んだり、調理法の違いに、驚きの歓声が上がりました。

しん、中国帰国者はペリメニと中国餃子の作り方の違いにショックと言いました。

会場は終始活発なおしゃべり、笑顔でいっぱい。「おいしい！」と料理を話題におしゃべりは広がり心と心も近づきました。

食後は、アコーディオン演奏の歌の会、ロシアの歌、日本の歌の明るい歌声が広がり心安まる会になりました。

ボランティアさんは「はじめてのロシア料理」が新鮮体験、帰国者が地域に伝える食文化は生活を豊かに新しい風を吹き込みました。

中国帰国者新年交流会

ふるさとの春節みた

NPO

地域支援へ広がる一歩



2世 歩んだ人生、自信の笑顔

る人もいて賑わいました。今年初めて参加した2世帰国者もいて、帰国以来必死に働き、親を支え子育てしてきた2世、今は「子供が大学生です」とか小学生だった3世は「就職し社会人です」と、帰国定着からの時間、人生の歩みを見る瞬間でした。言葉や文化の壁を乗り越え苦労を笑い飛ばし、自信に満ちた表情が印象的でした。

恒例の文芸発表では、中国の民族舞踊、楽器演奏、歌が次々に演じられ、会場はふるさとの春節みたいという声も。司会の中国語と日本語の巧みなおしゃべりに打ち解けて、楽しく交流の時間を過ごしました。会はシーズネットの多くのボランティアの皆さんに支えられ新たな広がりを作りだす一歩となりました。

春節を迎えた2月9日、恒例の中国帰国者新年交流会が賑やかに開催されました。身近な地域で帰国者を支えてもらおうと今年は NPO法人シーズネットに委託して開催、東区役所ホールに中国帰国者家族、ボランティア、支援者の皆さん合わせて200名近い人が参加しました。1年に1回の交流会が楽しみな帰国者が多く、家族連れで参加する人、道内町村から参加す

かいご しせつけんがくかい
介護施設見学会

み き た かいご まな
見て聞いて、食べて介護を学

きこくしゃ みな かいごせいど し
帰国者の皆さんに介護制度を知ってもらおうと
「介護保険制度理解のための施設見学」を続けてき
ました。見学は、少人数で午前、午後を通してゆっ
くり、じっくり施設を見て、食事を体験して、介護
制度を知ってもらう計画です。



がつとおか からみときこくしゃ めい さんか さつほろしあつ
3月10日、樺太帰国者6名が参加して札幌市厚
別区の「介護老人保健施設あつべつ」「ケアハウスや
すらぎ」「特別養護老人ホーム厚別栄和荘」の各施設
を見てまわりました。昼はバイキング方式の昼食
を試食体験、種類も多く「おいしい」との感想。

午後からは、施設や介護サービス内容などの説明
を聞きました。参加者からは、生活保護の場合の利用
や利用者負担の内容の質問が出て費用への関心を見
せていました。他に、外出はできるか、医療ケア
や利用者の入所理由、施設を作る基準など多くの
質問が出ていました。参加者からはロシアの養老院
の暗いイメージとは違うとロシアに比べて施設や環
境、介護サービスも良いと感心していました。

しよくぼけんがくかい
職場見学会

かいご しごと し
介護の仕事を知ろう

しゅうしよく せい びくし げんば し
就職をめざす2世へ福祉の現場を知ってもら
うと始めた介護の職場見学会は、前回に続きは1月
28日に中国帰国者2世、3月13日に樺太帰国者
2世が参加し行いました。見学施設は、慈啓会特別
養護老人ホーム（札幌市中央区）で、仕事の現場を
見て介護の仕事にふれて理解を深めました。

さくねん がつ にち おこ せい き こくしゃ おんせんいっぽくけん
昨年10月27日に行われた1世帰国者の「温泉一泊研
修旅行」に参加した國井榮治さん（恵庭市在住）か
ら、そのときの想いを込めた漢詩が届きました。

「洞爺湖に旅し思う」
じぶん じんせい ほこ たか た
自分の人生、誇り高く、立つ

ちゅうごくきこくしゃ せい くにいえいじ
中国帰国者1世 國井榮治さん



遊洞爺湖有感
秋高神爽樂遠足
北海遠瀾聚殘孤
昔日千重異幫怨
今時一碧洞爺湖
亭台傲立身自主
樓閣放目老氣舒
有幸同乾陳年酒
無限夕陽照余途
二一三年一月三日

かいせつ
【解説】

とうや こ たび おも
洞爺湖に旅し思う
あき ひ たび で ころ うご ひろ
すがすがしい秋の日は、旅に出たいと心が動く。広い
ほっかいどう かくち ざんりゆう こじなま あつ
北海道の各地から残留孤児仲間が集まった。
むかし まんしゅういこく ち かぞ くる
昔、満州異国の地で数えきれないほどの苦しみ
かな かさ いまきこく ねん こんべき うみ
悲しみを重ねてきた。今帰国して30年、紺碧の海のよう
とうや こ なが いま いちにんまえ にほんじん
な洞爺湖を眺めて、未だ一人前の日本人といえないが、
にほん ぶんか しゅうかん な おも
日本の文化や習慣に慣れてきたとしみじみと思う。
ころおも あたま さい い じぶん じん
これまで心重く頭を下げて生きてきたが、自分の人
せい うんめい じぶん き こはん あずま
生や運命は自分で決めることができると、いま湖畔の東
や ほごり たか からだ ちから かん た
屋に誇り高く体に力を感じて立つ。
りょかん みずうみ め はな じぶん じんせい ふ かえ
旅館から湖に目を放ち自分の人生を振り返ると、い
なに しんばい きもち の はな と はな
まは何も心配はなく気持ちが伸びやかに解き放たれて
いく。

くに あつ しえん にほんじん
センターや国の熱い支援のもとに、日本人として、
ひび つ かさ じゅくせい こしゅ ろうせい おな な
日々を積み重ね熟成した古酒のような老成した同じ仲
かまよるこ びしゅの ほ
間が喜びをともにし美酒を飲み干す。
あか そら はえ ゆうひ かがや ろうご ひとり にほんじん
赤く空に映る夕陽のように輝く老後、一人の日本人と
あんしん かち じんせい いっぽ ふ だ みち
して安心して価値ある人生へ一歩を踏み出す、その道
かぎ
は限りない。

「いつでもどこでも」学べる日本語遠隔地学習

スクーリング 「はっきり、わかる」

「いつでもどこでも」学べる日本語と中国帰国者定着促進センターの日本語遠隔地学習が行われています。そして、北海道の受講生のスクーリングが北海道センターで行われます。



月1回のスクーリングでは、日頃学んだ学習の点検や指導が行われます。スクーリングは「自分でははっきりしていないところがはっきりする」「一对一の指導で発音などよくわかる」と学ぶ帰国者には好評です。

指導にあたる講師も「学習意欲はとても高い。皆さん課題をしっかりと勉強している。」と熱意に驚いています。スクーリングでは、復習を中心に学んだ成果を確かめたり、また学んだことからさらに次の話題に広がり理解を深めることがあるといえます。教室での学習とはまた違った実りある学習ができます。

遠隔地学習の内容も充実してきています。帰国者の皆さん、ぜひ学んでみませんか！

職業訓練見学会 ・ 就職支援の制度を知

3月26日、帰国者の皆さんの就職のために役立ててもらおうと北海道職業訓練支援センター（ポリテクセンター北海道）で、技能を学ぶ職業訓練の見学会を行いました。同センターでは、現在300人が機械、電気、住宅、ビル設備などの科目で訓練を受けています。訓練を受けるため試験、資格の取得や就職などについて説明を受け、各科目の訓練の現場を見学しました。帰国者の皆さんには、就職支援の職業訓練制度に理解を深め、進路を考える参考となりました。

4月・5月・6月の行事

4月22日	第1回健康運動教室
5月11日	第1回DVD上映会
5月15日	旭川市おしゃべり交流会
5月16日	第2回健康運動教室
5月19日	おしゃべり交流会
6月2日	日本の家庭料理教室 1
6月9日	日本の家庭料理教室 2
6月17日	第3回健康運動教室

ニュース

一時帰国団・親族の絆結ぶ

日本サハリン協会の樺太残留邦人一時帰国事業が、15名の一時帰国団を受け入れて、3月23日から29日まで行われました。帰国を前に3月28日、札幌で送別会が開かれました。団員の皆さん「お母さんが日本が祖国と言っていて来てみて日本が好きになった」「自分の家にいるように過ごした」と語り、弟と再会したという帰国者も満面の笑みで迎えていました。

一時帰国事業は、日本とサハリンに住む親族の絆を結ぶ大切な交流になっています。送別会は明るく暖かな雰囲気にも包まれた親しみある会、皆さん元気な再会を誓っていました。

写真展で樺太帰国者が語る

サハリンの樺太残留邦人をテーマに写真を撮り続けている写真家後藤悠樹さんの写真展が、1月15日から1月20日まで新札幌ギャラリーで開催されました。その会場で1月18日、ギャラリートークが開かれ樺太帰国者川瀬米子さんが残留邦人が生きてきた人生を語りました。参加したおよそ40名の市民が熱心に聞き入り樺太帰国者の実情や問題へ理解を深めました。

編集後記

「初めての味」と新鮮体験に感激したのは、旭川で樺太帰国者との料理交流会に参加したボランティアの皆さん。定着した帰国者が地域に受け容れてもらえないということをよく耳にします。でも、帰国者の皆さんが背負う文化は、人や地域、生活を豊かにするものでもあります。そんな帰国者理解が広がれば帰国者には住みやすい環境が生まれ、旭川の経験で感じたところです。鍵は異文化理解です。